



P2▶4

LCJE本部ニュース131号より

P5

シオンとの架け橋 石井田 直二

P6

ライフ・イン・メサイヤ 石黒 イサク

P7

ハティクバ・ミニストリー 高瀬 真理

P8

お知らせ 事務局より

巻頭言

今日の教会が
回復しなければならないもの

アルコ・イリス・ミニストリーズ代表 早川 衛

「平成」が終わろうとしている。「平成」は1989年に始まった。その年の12月、アメリカ合衆国のブッシュ大統領とソ連のゴルバチョフ共産党書記長が、マルタで冷戦の終結を宣言した。それによって、世界に新しい秩序がもたらされるのでは、と多くの者が考えた。しかし、そうではなかった。1990年には、ルワンダ紛争が、1991年には湾岸戦争が始まった。

そして2001年9月11日には、アメリカ同時多発テロが起こり、アフガニスタン紛争へと続いた。昨年12月、現天皇は、自身の誕生日に先立ち「平成が戦争のない時代として終わろうとしていることに心から安堵しています。」と発言した。しかし、世界は、この30年間、上述のとおり、戦争や紛争に満ちていた。そして新しい秩序はもたらされなかった。敢えて言うなら「無秩序という秩序」が存在するようになった。真の秩序をもたらす方は、茫漠として何もなかった地を造り変えた創造主である。

ペテロはユダヤ人に対し次のように語った。

「ですから、悔い改めて神に立ち返りなさい。そうすれば、あなたがたの罪はぬぐい去られます。そうして、主の御前から回復の時が来て、あなたがたのためにあらかじめキリストとして定められていたイエスを、主は遣わしてください。このイエスは、神が昔からその聖なる預言者たちの口を通して語られた、万物が改まる時まで、天にとどまっていなければなりません。」(使徒 3:19 ~ 21)

つまり、ユダヤ人が悔い改め、救われる時、イエス・キリストが再びこの地に来られ、万物は改まるのである。それは、真の秩序がもたらされ、万物が回復される時である。

さて、ヨハネの黙示録には、7つの教会が描かれている。それらの教会は約2000年前、小アジアに存在したものであるが、同時に教会の歴史や、その中に存在する教会の型を表わすものでもある、と言われる。イエスは5番目の教会、すなわち「サルディスにある教会」にこう言われた。

「わたしはあなたの行いを知っている。あなたは、生きていとは名ばかりで、実は死んでいる。目を覚まし、死にかけている残りの者たちを力づけなさい。わたしは、あなたの行いがわたしの神の御前に完了したとは見ていない。」(ヨハネの黙示録 3:1b ~ 2)

これらのことばから、人はサルディスにある教会を「生きた教会」とほめたが、イエスの評価は逆のものであったことが分かる。彼らの行いは神の御前には不完全なものであったのだ。それでは、彼らがすべきことは何だったのか。イエスのことばのひとつである「死にかけている残りの者たち」は、欽定訳では「**strengthen the things which remain, that are ready to die**」である。つまり、欽定訳では「残りの者たち」ではなく「残りの物」なのである。ギリシャ語本文からは、欽定訳の方が正しいのでは、と思われる。そうだとするならば、サルディスにある教会には、力づけるべき物、つまり、回復すべき物があつたことになる。

サルディスの意味のひとつは「逃れ出る者」である。サルディスにある教会のひとつ前の教会は、ティアティアにある教会である。ティアティアの意味は「継続された犠牲」であるが、それは、カトリック教会の教えを表わしていると思われる。カトリック教会ではイエス・キリストの像が十字架に張り付けにされたままであり、司祭が祝福するパンとワインは、文字通りイエス・キリストの体と血に変わる、と教えられてきた。それは継続した犠牲であり、誤った教えである。

それに対し異議を唱えた人物、すなわち、その教えから逃れた人がルターであった。そして、彼は、信仰義認や聖書のみ、信仰のみ、万人祭司という教え、あるいは新しい賛美を回復した。しかし、イエス・キリストの再臨やそれに必要なイスラエルの救いに関する教えは回復しなかった。いやむしろ、彼は反ユダヤ主義的論文「ユダヤ人と彼らの嘘について」を書いた。同論文は、ホロコーストまでの数世紀において、ユダヤ人に対するドイツ人の態度に影響を与えた、と言われている。

イエス・キリストは、今日の教会に対しても「死にかけている残りの物を力づけなさい。わたしは、あなたの行いがわたしの神の御前に完了したとは見ていない。」と語っているだろう。今日の教会が回復しなければならない「死にかけている残りの物」の中には、イエスの再臨への備えと再臨に必要なイスラエルの救いのための働きがある。それは、この天と地に真の秩序がもたらされ、万物が回復されるための必須事項である。

ビリー・グラハム博士の生涯と宣教における影響

LCJE 国際コーディネーター ジム・メルニック 翻訳：駒井洋子

『ビリー・グラハムは「ローザンヌユダヤ人伝道協議会の霊的父」である』 前クリスチャニティ・トゥデイ副編集長 デービッド・ネフ

●ローザンヌ世界宣教運動

多くの読者をご存知のように、LCJEはローザンヌ世界宣教運動の一部門です。この運動は、1974年スイス、ローザンヌでローザンヌ世界宣教委員会（LCWE）としてビリー・グラハム博士によって設立されました。



グラハム博士への賛辞において、ローザンヌ世界宣教運動では、第一回ローザンヌ会議について、次のような声明を出しました。「この会議では、ビリー・グラハム博士が祈り求め、起草者ジョン・ストット師によって聖書的宣言『ローザンヌ誓約』を採択交付しました。

この『誓約』は近代教会歴史の中でも最も意義深い文書の一つとして認識されています。今や、おなじみの言葉『未伝の人々のグループ (unreached people groups)』というのは『ローザンヌ誓約』が生み出した言葉で、そこで働く人々の祈りと働きを活性化しているものです。罪責感・刑罰、そして罪の力から救いされる必要は、常に運動の核となってきました。しかし、『ローザンヌ誓約』は、また福音的コミットメントを憐れみのミニストリーへと結びつけるものでもあります。ローザンヌ運動は、『包括的ミッション』として知られるようになるでしょう。」「1974年以来、ビリー・グラハム博士の言葉『ローザンヌの精神』はリーダーが活動し、つながりを持つべき方法として広まっていきました。それは、彼の言葉では、パートナーシップ、研究、謙虚さ、希望そして祈りの精神だということです。」(www.lausanne.org)

●賛辞—LCJE総裁 トヴィヤ・ザレツキー

ユダヤ人宣教のためのローザンヌ運動カタリストでありLCJE総裁トヴィヤ・ザレツキーは次のように語っています。「ビリー・グラハムは、『自分はユダヤ人の友である』と言い、福音のメッセージを語ってそれを証明しています。彼が、イエス・キリストへの招きの言葉の中にしばしば『これは、あなたに提供されているものです。あなたがカトリックであろうと、プロテスタントであろうと、ユダヤ人であろうとです。』ユダヤ系アメリカ人の指導者は、彼の申し出は嬉しくはないかもしれないが、それでもグラハムのユダヤ人に対する敬意や友愛は認めています。ビリー・グラハムの、ユダヤ人に対する親愛の大きな表明は、救いの良い知らせを後退させるものでは決してありません。生涯を通して、グラハムは、メシヤ・イエスのことば『私が道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。』を度々繰り返していました。

ビリー・グラハム友愛の心は、ユダヤ人を含め、誰にでも永遠の命を分かち合うことによって明らかにされています。」

●ビリー・グラハム、ニクソン大統領とローザンヌ運動

この記事を書くにあたって、私はビリー・グラハム、ニク

ソン元大統領、ローザンヌ運動発足について驚くべき背後の事情を知ることになりました。ビリー・グラハムは歴代の多くのアメリカ大統領の顧問・助言者でした。

1973年2月21日のニクソン大統領との電話（その後の電話においても）グラハム博士は、「世界教会協議会に相当する世界的規模の組織を作ると」という構想を語りました。ニクソンは「それは素晴らしい。」と熱心に聴き、グラハムは、「ローザンヌで、4000人の教会指導者が集まる会議を来年の夏に開催します。」と続けました。ニクソン大統領の返答は「それには大賛成だね。」でした。グラハムは、「それが実現したときには、大センセーションを巻き起こすでしょう。」と答えました。大統領は、その考えに非常に大きな興味を持ち、またプロジェクトに対するグラハムの抑えがたい熱意をありありと感じ取りました。

●痛ましいエピソード

その当時、あるユダヤ人コメンテーターや人々は、ニクソンのある態度から反ユダヤのラベルを貼っていました。しかし、1973年のヨム・キプール戦争（第四次中東戦争）の暗黒の日々に、イスラエルを救うために緊急空輸航空機を送り出したのは、他でもないニクソン大統領でした。ある者は、大統領をそのようにさせたのは、ビリー・グラハムがニクソンへ電話をかけて動かした結果であると信じています。イスラエル元首相のゴルダ・メイアは、「わが国民の命を救う物資を運んで、米国から驚くほどの多数の飛行機が来たという奇跡が、この先ずっと語り告げられるであろう。」と言っています。イスラエルの国会が開かれているとき、空輸が始まったとの報告を受けた彼女は、涙を流したと伝えられています。

この事は、数年後知った事件の脈絡を理解するのに重要な事柄です。それは、米国国立公文書館が30年後に公開した1972年大統領執務室で語られたニクソンとグラハムの会話の記録でした。これはたちまちグラハムをユダヤ人コミュニティとの論争に巻き込みました。というのは、ある部分がユダヤ人を広く貶めるものだと見られたからです。グラハムは、彼の弁明の中で次のように語っています。「私の述べたことは、私のユダヤ人に対する愛を正しく表していません。どうぞ、ユダヤ人コミュニティの皆さん、私があの日、大統領執務室で語った言葉とは反対に、私がユダヤ人のために何年も行ってきた行為を思い出しでください。」

ラビ・サムエル・M. スタールは、2002年4月の説教で「我々は…今や、彼をユダヤ人の堕ちたヒーローとみなす。」と語りました。

このように、ユダヤ人の共同体内でのグラハムの足跡は、相反する要素の混ざったものとなるでしょう。たしかに、私たち皆が欠点のある人間であるように、彼も欠点のある人間でした。しかし、いずれにしても彼の語った福音が全てではないでしょうか？

それは、悔い改めと赦しであり、ユダヤ人メシアの名によ

る命を受けることです。

●ビリー・グラハムとユダヤ人宣教 — Key 73

グラハム博士のユダヤ人宣教への影響そのものについてはどうでしょうか？ クリスチアニティー・トゥデイのデヴィッド・ネフ副編集長は、グラハムをローザンヌ運動の父として、記事の中で的確に「グラハムとユダヤ人—複雑な関係」と述べています。また、グラハムはLCJEの「霊的祖父」でもあります。これはまぎれもないことです！ しかし、彼のユダヤ人宣教との繋がりもまた「複雑」であります。

ネフが明らかにしているように、グラハム博士は、ユダヤ人に対して特定のアウトリーチに自身が携わることを避けています。「1973年、彼はユダヤ人をターゲットとする Key 73 福音伝道キャンペーンから距離を置いていた。」と。これも真実です。しかし、この物語の背後にはもっと多くのことがあり、その多くはユダヤ人福音宣教の近代歴史を、少なくとも合衆国にとって理解する上で重要なことです。その一部は、先に述べた1973年2月21日のグラハムとニクソン大統領の間の驚くべき電話の中に見いだすことができます。

●教会の擁護者として、ユダヤ人コミュニティの仲介者としての働き

グラハム師はその生涯の多くを、クリスチャンとユダヤ人コミュニティとの重要な仲介者として働き、彼もその役割のことは確かに理解していました。イスラエルの擁護と共に、彼はアメリカの教会とクリスチャンの自由も擁護するという役割も理解していました。これは、彼のニクソンとの電話から知ることができます。

Key 73 福音伝道キャンペーンは米国中のキャンパスに広がってゆき、ユダヤ人コミュニティの激しい反発を引き起こしました。ユダヤ系アメリカ人委員会の指導者であり、米国で当時の最も影響力のあるラビのマーク・タネンバウムはユダヤ人への Key 73 の関わりについての懸念について取り組んでいました。

例えば、1973年1月のジュイッシュ・テレグラフ・エイジェンシー (JTA) には「ユダヤ人は、ことのほか Key 73 の強い影響、同じくキャンパス・クルセード・フォー・クライストのような福音主義運動が、高校や大学の若者に影響を与えることを危惧していると述べています。ラビのタネンバウムは、Key 73 のリーダーによる高圧的なやり方を拒絶するということがキャンパスの多くの福音伝道者に徐々に浸透していくことを期待している。」と述べています。

この福音伝道における「ユダヤ人への強制改宗」と思われる攻勢は、多くの福音的リーダーの気分を深く損なうことになりました。彼らの多くは、またイスラエルの強力なサポーターでした。Key 73 のテオドル・ラエデーク理事は、タネンバウムに書簡を送り、「私たちは、ユダヤ人を迫害し、圧力をかけたり、また、信じるように強制したり、意思に反したことをするように強いることも望んではいません。Key 73 運動は、反ユダヤ主義もイデオロギーや押し付けも含まれていません。」と伝えました。彼はさらに「ユダヤ人は、私たちの聖なる信仰を害し、信仰を述べ伝える権利—米国に住むものの特権—を奪おうとしないことを確信しています。」と述べています。

両者にはそれぞれ一線が設けられていました。私たちは、当時のユダヤ人の抵抗についてはよく理解できます。というのは、多くのユダヤ人の若者がイエスを信じるようになったからです。いま、その多くがメシアニック運動やユダヤ人宣教のリーダーとなっているからです。

このような状況下でグラハムとニクソンは電話で話し合ったのです。電話の内容を聞くと、ニクソンとグラハムは、ユダヤ人の反発が反ユダヤ主義を拡大させることを懸念し、このことを止めたいと思っていることが分かります。両者は、ユダヤ系アメリカ人指導者の Key 73 への強い反発に動揺していました。ニクソンは、グラハムに、ユダヤ人の反対をほどほどにするようラビのタネンバウムと状況を話し合うよう熱心に促しました。このことは、状況がさらに拡大しないうちに、全体的な関係を正しい路に戻すために重要なことだったからです。ここに、大変興味深い彼らの会話の写しがあります。

●ニクソン大統領とグラハム博士の会話

ニクソン大統領 (以下 N 大統領):「私は何よりもイスラエルの友であり、この国のユダヤ人の友でありたいと思っている。しかし、彼らが冷静にならないなら、それは彼ら次第だが、私はこのひどい風潮を阻止しなければならないと、このことをラビ・タネンバウムに指摘してくれるといいのだが…」

[一部省略]

グラハム博士 (以下 G 博士):教会でも、同様です。ここ2ヶ月、教会で起こっている事と言えば…まったく、この教派の指導者といったら…彼らはこのユダヤ人の反抗に振り回されています、彼らはとても親ユダヤ人だったものからです。

N 大統領:そうなんだ。

G 博士:それに、最も親ユダヤ人だった者たちが、そのユダヤ人に攻撃されているものだから。

[一部省略]

N 大統領:うーん、死の願望かもしれないな。それは、われらのユダヤ人の友にとって、何世紀もの間の問題だったからね。

G 博士:しかしながら聖書によれば、彼らは神の時計であり、神は代々に渡って彼らを裁き、そしてなお彼らを用い、そして彼らは自らのアイデンティティを保っている。

N 大統領:そのとおり。

G 博士:彼らがひどく恐れていることの一つは、多くの若者がユダヤ教から離れていっていること…彼らはユダヤ人として生き残ってきたのに、イエスの弟子になっている。彼ら (ユダヤ人指導者) にとって、それは死ぬほど恐ろしい…

N 大統領:[くすくす笑い] そうだな。

G 博士:このジュース・フォー・ジーザスは国中に、いろいろな大学に組織されています。

N 大統領:すばらしいねー。

G 博士:彼らは、自分たちは生き残りのユダヤ人であるといながら、イエスが誤った取り扱いを受けたことは信じ

ています。そして、このことはユダヤ人指導者にとって恐ろしいことで、この国で過剰反応を起こしているのです。

●2000年南部バプティスト連盟

グラハム博士は、Key 73 と同様に、「彼自身の南部バプティスト連盟のユダヤ人アウトリーチには距離を置いていた。」とデーヴィッド・ネフが記録しています。

このことは、事実ですが、私は、LCJEの著名なメンバーのジム・シブリーにこのことについて問い合わせしてみました。当時彼は、南部バプティスト連盟でユダヤ人ミニストリーを率いていました。彼は、グラハムの反応に失望したことを記憶していました。それでも、彼はグラハムに大きな尊敬の念を持ち続けています。現在、イスラエルのネタニヤのイスラエル聖書大学で教鞭をとっているシブリーは、「グラハム博士はイスラエルとユダヤ人の偉大な友です。彼が、イスラエルの失われた羊（マタイ10：6）のところに福音を届ける仕事を公に支持してほしかった。」と語っています。加えて、グラハムは厳密には、シブリーの育ったダラスのファースト・バプティストチャーチ、そこはW. A. クリスウエル師が牧会しているが、そのメンバーであると言っていました。

●グラハムの遺産の評価

グラハム博士が公にユダヤ人宣教から身を引いていたが、一方、次のようなことも知ることができます。ビリー・グラハムの本当の業績は、もっと間接的なものでした。それは、いかに彼のミニストリーが私たちの人生を変え、結果的に私たちをユダヤ人に対するミニストリーに備えさせたかということです。

この取り組みは、実に個人的なもので、測ることは困難ですが、貢献価値のあるものです。このことに関して、私は以下に3名の体験を紹介いたします。私自身と、長年の友人と、私の牧師の証しです。もしビリー・グラハムのミニストリーが無ければ、私たち3人の人生はどれほど違ったものになっていたことでしょう。そこが問題なのです。

●個人的証し

以前のLCJE会報にも関連していますが、私は1967年6月、アメリカ、オハイオ州キャンフィールドで行われたレイトン・フォード・クルセードで信仰に導かれました。この福音宣教クルセードは、ビリー・グラハム伝道協会のスポンサーによるものでした。（レイトン・フォードはビリー・グラハムの義理の兄弟です。）私の家族は教会に長年行っていたのですが、私がはっきりと福音を聞いたのはその時が初めてでした。そのことを可能にしてくれたビリー・グラハムのミニストリーに大変感謝をしています。

また、多くの私や私の両親の世代のアメリカのクリスチャン家庭のように、私もビリー・グラハムの伝道クルセードをテレビで観るようになりました。ユダヤ人宣教に携わる私たちは「クルセード」という言葉が、実際のクルセード（十字軍）の時、ユダヤ人に対して行われた残虐行為からくる多くの歴史的否定的な意味合いを持つにもかかわらず、死の世界に福音をもたらすという観点から見て、その言葉は長年にわたって私たちには尊いものでした。

1978年、私と妻カレンがシカゴのロシア系ユダヤ人の宣

教分野に進んだとき、私たちの最も大きな励まし手でありサポーターであり祈りの執り成し手であったのは、私の前の大学の



教授であったJ. ミラー・ペックでした。また、私が初めて出会ったユダヤ人信仰者の故ジョージ・グルエンは、大学のクリスチャンのグループをリードしていたペックを通してでした。グルエンは、トゥルース・フォ・イスラエルミニストリーを立てあげた人です。

1970年以来、ミラーと私は非常に親しい友人であり、LCJE国際コーディネーターとしての役職にある私を、今も励まし続けてくれています。ミラー自身の生涯に対するビリー・グラハムの影響とはどんなものでしょうか？ 彼と彼の家族は、1948年ピッツバーグで開催されたビリー・グラハム・クルセードで前に出て、主に生涯を捧げました。もう一人の友人は、1957年のニューヨーク・クルセードで福音を聞きました。これらのクルセードは彼らの生涯に強烈なインパクトを与えたのです。

私の牧師である、ダグ・キットリッチ博士は若い時、彼の牧師、ボストンのパーク・ストリート・チャーチの著名な牧師であるハロルド・オッケンガー博士を通してビリー・グラハムに出会っています。それは1962年4月1日、ビリー・グラハムがハーバード法律学会で、「福音主義と知識人」というテーマで語ったときでした。すべてが衝撃的な経験でした。

その夜、グラハム、彼の牧師、他の人と帰りの車の中で、グラハム博士は、彼のメッセージが会衆に届いたかどうか怪しんでいました。彼の語る言葉をあざ笑うかのような妨害があったからです。それから、グラハム博士はダグの方に向いて、「君は、牧師になりたいと言っているそうだが、本当かね？」と聞きました。ダグは、そうですと答えました。（その夜の集会メッセージによって、彼はより深く確信を持つに至っていました。）グラハム師は、「きつとうまくいくよ」と言い、この召命を断言しました。それはまさに人が変容する瞬間でした。

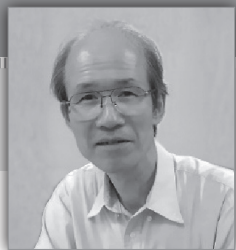
数十年後もキットリッチ牧師は、福音を語り続けています。彼は長年にわたり、イスラエルにあって多くの牧師のカウンセラー・助言者であり、ユダヤ人福音伝道の“力強い声”であり同労者であり、そして私の友人でもあります。

これら3つの物語は、ビリー・グラハムの世界に及ぶ影響のほんの少しを示したものです。この謙遜で、しかし偉大な神の人の説教と献身によって何度も何度も多くの人の人生を永遠に変えたその人も、多くの真の信仰者と同様に欠点を持っていました。

これもまた深い真実であります。彼も語ったように、力の主であり救い主に仕える、恵みによって救われた罪びとに過ぎないということなのです。

ジム・メルニック

lcje.int@gmail.com



2019年の新しい展開に期待する

シオンとの架け橋 石井田 直二

今年8月にカナダで開催されるLCJEの第11回世界大会（本誌8ページ参照）のテーマは“Making All Things New”ですが、今年は日本でも様々な新しい動きが見えています。

以下の集会やツアーが祝福され、聖霊の導きにより用いられるようお祈り下さい。

●2月：JPFカンファレンス

日本全国から600人以上の牧師や教会リーダーが集まるペンテコステ派の大会で、今年のテーマが「ONE NEW MAN ～イスラエルと教会」になっています。

イスラエルからアシェル・イントレーター師、イスラエル・ポクター師らを招き「イスラエルに対する健全な聖書理解」を目指す、画期的な内容です。

期間は2月5日夕方から8日午前まで。すでに申し込みは締め切られていますが、ぜひとも聖霊の導きをお祈り下さい。シオンとの架け橋もブース出展を予定しています。

●5月：TJCI I (第二エルサレム会議の準備運動)

ユダヤ人信徒たちが集まり、異邦人を異邦人のままで教会に受け入れることを決議した、使徒15章の「エルサレム会議」。その第二回を開催し、異邦人信徒がユダヤ人信徒を「ユダヤ人であるまま」で教会に受け入れることを決議しようと言う壮大なプロジェクトです。必然的にカトリックや東方教会を巻き込むことになるため「エキュメニカル」として反対する声もありますが、注目すべき運動です。

この運動のリーダーであるダニエル・ジャスター師（メシアニック・ジュー指導者）、ブライアン・コックス師（米国聖公会司祭）、特別ゲストとしてピーター・ツカヒラ師が出席し、5月2日（木・祝）東京都内にて特別集会を計画。会場と時間は調整中とのこと。

●5月：アヌシームを覚える会議とツアー

中世にポルトガルで強制的にキリスト教に改宗させられたユダヤ人たちの末裔について考える会議＋ツアーです。彼らの多くは隠れてユダヤ的風習を守りつつ、イエス・キリストを信じてきました。しかし、彼らがイスラエルに帰国するためには、イエス・キリストを否認してユダヤ教に改宗するしか道がありません。

5月17～18日に会議、その後22日まで迫害や異端審問の跡地を訪ね、祈りの時を持ちます。日本から

も多くの人々に参加して欲しいとの要望が来ています。参加費等についてはシオンとの架け橋まで。

●8月：アジア・メシアニック・フォーラム

第11回のLCJEの国際大会に日程が重なってしまっていますが、8月13日夕方から16日夜までバンコクにて第6回のフォーラムが開催されます。第一回が日本で開催されて10年目となる今回の講師は、アシェル・イントレーター師、ヨセフ・シュラム師、ピーター・ツカヒラ師と、3人の有名講師が揃います。参加費は日本円で35,000円（食事・宿泊込）に設定させていただきました。往復航空券は各自手配となりますが、繁忙期のため早目に動かれるようお勧めします。詳細はシオンとの架け橋へ。<http://www.zion-jpn.or.jp/>

	Tue 13	Wed 14	Thu 15	Fri 16	Sat 17
Morning	Arrival	Session	Session	Session	Session
Afternoon	Check-In	Session	Session	Session	Session
Evening	Board Opening	Session	Session	Session	Departure

●11月：ネティブヤ創立40年記念旅行

エルサレムで活動するネティブヤが、1979年に非営利団体（アムター）となってから40年になるのを記念し、11月11～20日まで、全世界の支援者を集めてイスラエルツアーを開催します。名ガイドとして知られるハナ・コブナーさんも参加予定。単なる観光旅行だけでなく、普通ではできない見学や、学術的な特別講義なども。参加費は、現地費用のみで2700ドル、往復航空券は各自手配となります。お問合せをいただければ、詳しい資料をお送りします。

この他にも多くの集会を開催予定です。どうぞご参加ください！

ライフ・イン・メサイヤの新しいリーダー

ライフ・イン・メサイヤ・インターナショナル日本委員 石黒 イサク



ライフ・イン・メサイヤ・インターナショナルは2019年、大きな変化を迎えます。それは過去30年にわたって代表として私たちを導いて来られた、ウェスレイ・テーパー師が退任し、新しいリーダーに交代するからであります。1991年から師とともに歩んできた私にとって、このことは寂しくもあり、また受け入れなければならないことなので、今も複雑な心境であります。

ウェスレイ・テーパー師は、前代表のビル・カリー師の娘婿にあたりますが、1970年代より夫婦でライフ・イン・メサイヤ・インターナショナルの前身のアメリカン・メシアニック・フェロシッパに加わり、伝道師・宣教師としてアメリカではシカゴやマイアミ、そしてエルサレムなどで活躍された後、若くして代表に抜擢されました。1887年に設立された全米で最古のユダヤ人伝道団体は、彼の下で大きく成長し、その働きが世界各地に拡大していきました。過去二〇数年にわたって、何度も来日され、LCJEの集会でもたびたび講師となってくださった、皆様にも馴染みのある先生であります。

かねてよりテーパー師は、自身の65歳を期に、後進に道を譲りたいという意向を語っておられました。しかしテーパー師の後任を選考する作業はとても難航しました。それには私たち数十年間にわたって、この働きを共にしていた同労者の多くが、少しでも長くテーパー師に導いてもらいたいと切望していたことも事実であります。同時にまた、師の意向も世代交代の必要性も大切なことです。この数年間にわたって委員と幹部たちが会合を重ねて昨年末に最終決定をするところまで漕ぎ着けたのであります。

新代表には、リーヴァイ・ヘーゼン (Levi Hazen) 師が就任いたします。今後、約半年間の業務引継期間を経て、今夏8月1日付で新体制をスタートすることになります。1月よりヘーゼン師は代表代行というかたちで、テーパー師と共に業務引継をいたします。どうぞ皆様のお祈りに覚えてくださいますように、よろしくお願いいたします。

リーヴァイ・ヘーゼン師は、2011年よりライフ・イン・メサイヤの働きに加わり、毎年のように伝道チームを率いてイスラエルで活動を行ってきました。彼は大学で商業・経済の学位を取得後、ムーディ聖書学院でユダヤ関連の研究を積み、聖書・神学修士号を取得しました。そして非常勤講師として現在もムーディ聖書学院において、世界宣教やクリスチャンの活動についての講義を行っています。

彼は、2015年より複数の宣教地においての活動にも抜擢され、そのリーダーとしての才能を磨いてきました。2018年に彼は、全米の各地に招かれて約80回の聖書講義・講演を行ったほか、過越の祭りのセダーを4箇所で行いユダヤ人たちにもメシアを紹介する機会を与えられました。また七カ国のライフ・イン・メサイヤの宣教師たちの活動する現場を訪問しました。彼のイスラエル、ユダヤ人に対する愛と献身は、多くの人々の前で評価され、テーパー師の後任として選出されるに至りました。



彼の妻ステファニーは、2月初旬に第一子の出産をひかえています。また今夏はイスラエルに於いてのミニストリーも予定されています。ヘーゼン家にとって今年は、まさに大変動の年となることでしょう。

ここに、ウェスレイ・テーパー師の言葉を紹介いたします。「妻のローリィと私は、ライフ・イン・メサイヤのためにリーヴァイが新代表に選出されたことを心より歓迎いたします。彼を支え、彼のリーダーシップの下で、神様がこのミニストリーのために素晴らしいことをしてくださることを私たちは信じ、期待しています。」

具体的な予定は全く立てていませんが、近い将来ヘーゼン師が来日されることもあると思います。テーパー師もまた来てくださるかも知れません。どうかライフ・イン・メサイヤ・インターナショナルの新しいステップのために、皆様も感心を持っていただき、お祈りに憶えていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。LifeInMessiah.org



今は恵の時、救いの日です

ハティクバ・ミニストリー代表 高瀬 真理

「あなたがたは何の権威によって、また、だれの名によってこんなことをしたのか。」使徒4章7節

聖霊のダイナミックな力によって始まったキリストの福音宣教は、神を信じる人たちに力と勇気を与えました。キリストの福音によって、多数の人々が救われ、病人が癒され、不思議と奇跡、そしてしるしが起こったのです。イスラエルの指導者たちは群衆がペテロとヨハネの方に流れ、死者の復活メッセージを信じるようになり、困り果てたのです。

使徒4章4節は、信じた者は男だけでも五千人と記録しています。そしてついに、指導者たちはペテロとヨハネを捕え事態沈静化のため、彼らを投獄しました。翌日、イスラエルの指導者たちは、ペテロたちを真ん中に立たせ質問しました。じつに大胆な使徒たちの証言が始まりました。

●使徒たちの行動

ペテロとヨハネは宮の中で、死者（イエス）の復活を語りました。ガリラヤの漁師上りの彼らが、大群衆を前にしかも神殿の中心で説教している姿を想像してみてください。本来、宮の中心は祭司職であるレビ族出身者に限られました。彼らはユダヤ神学を深く学んだ人々でした。しかし、群衆はこの奇跡を行った二人の方に関心がありました。

み言葉は次のように記録しています。

「彼らはペテロとヨハネとの大胆さを見、またふたりが無学な、普通の人であるのを知って驚いたが、ふたりがイエスとともにいたのだ、ということがわかって来た。」（使徒4・13）。

彼らは主がなされたわざを、ただ証したのです。忠実な使徒たちは何を語ったのでしょうか。それはイエスの復活でした。

神は旧約聖書において約束されたように、イエスは確かに復活されました。不信仰な者には信じられないことでした。彼らの視点は違いました。み言葉は次のように記録しています。

「イスラエル人たち。なぜこのことに驚いているのですか。なぜ、私たちが自分の力とか信仰深さとかによって彼を歩かせたかのように、私たちを見つめるのですか。」（使徒3・12）。

二人のメッセージの中心は復活の主イエス・キリストでした。

●指導者たちの取った行動

当時の指導者たちが取った行動は、み言葉通りです。

「彼らに手をかけて捕えた。そして翌日まで留置することにした。すでに夕方だったからである。」（4・3）

サドカイ派は、もともと死者の復活を否定していたユダヤ教一派の熱心党です。また民の長老や学者たちは、イエスをやっかい者として十字架にかけた人々です。ところがガリラヤの漁師の二人はイエスの復活を説き、群衆が彼らの方向に関心を持ち支持され始めました。指導者たちにとって、二人の説教は「イエスの運動」そのものであり、

大変困ったものでした。

イスラエルの指導者たちは、かつてイエスを憎しみから逮捕・投獄・十字架につけたように、イエスの弟子たちにもそのようにしました。イエスは、「人々には用心しなさい。彼らはあなたがたを議会に引き渡し、会堂でむち打ちますから。」（マタイ10・17）と言われました。

このみ言葉のように、使徒たちはその後も大きな試練と迫害を通りました。しかし幸いなことは、彼らは迫害下でもひるむことなく「大胆に前進」したことです。主を信じる者にとっては、大きな励ましです。なぜなら、そこに生ける神の介入と臨在があり、御業が行われたからです。使徒たちの信仰は迫害によっては奪われませんでした。

●イスラエルの指導者たちの問い

「彼らは使徒たちを真中に立たせて、『あなたがたは何の権威によって、また、だれの名によってこんなことをしたのか。』と尋問しだした。」（使徒4・7）

何の権威と、だれの名によったのでしょうか。ペテロはエルサレムにおいて、これらの問いに対する全ての回答は、キリスト・イエスにあると証言しました。神は信じようとしない指導者に、再度恵みの時を備えられました。当時エルサレムで起こった復活は、大問題でした。真実か、あるいは不真実か…。

信じる者たちは、事実であるがゆえ命をかけて語り続けました。彼らは何を語ろうかと心配しませんでした。御言葉は次のように記録しています。

「また、人々があなたがたを、会堂や役人や権力者などのところに連れて行ったとき、何をどう弁明しようか、何を言おうかと心配するには及びません。言うべきことは、そのときに聖霊が教えてくださるからです。」（ルカ12:11-11）。

信じない者たちは否定し、上からの力で抑えました。どちらが勝利を得たのでしょうか？ 歴史は明らかに示しています。

現在もイエスを「メシア」と信じる者たちがいます。しかもその「ユダヤ人」の中にもいます。まさしく今は「恵みの時、救いの日です」。しかし、残りの時間は限られています。私たちは声を大にして、残された時間使徒たちのように復活の主を証し続けようではありませんか。

LCJEは、ユダヤ人伝道団体の情報交換ネットワークです。加盟しているユダヤ人伝道団体それぞれの立場・活動を尊重して、機関紙などに情報を掲載しています。しかし特定の立場・教理などを、LCJEとして支持するものではありません。読者におかれましては、個々の見識によって提供される情報を判断していただきますよう、お願いいたします。

2019年度祈禱会予定

場 所	2月	3月	4月	会 場
大阪 (6:30より)	14日	14日	11日	北浜スクエア (VIP関西センター8F)
東京 (1:30より)	9日	9日	13日	御茶ノ水クリスチャンセンター 8F 811号室

【大阪祈りにご参加される方へ】 第二木曜日午後6時半開始です。会場はVIP 関西センター8Fです。

【東京祈りにご参加される方へ】 ご注意ください▶通常祈りの会場の、811号室ですが、変更される場合があります。階下の掲示板をご覧になってご参加ください。

COMING TO TORONTO - 11-16 Aug. 2019! LCJE 11th International Conference Conference Theme: "Making All Things New"

LCJE.ORG: Click on the GO CARD below or [here](#) to go directly to the special conference website.
Why should you not miss this conference? Click [here](#)!



LCJE日本支部2018年12月度会計

収入・献金			支出・現金			
科	目	金 額	科	目	金 額	
献	金	209,000	事	務	費	11,789
大阪祈り会席上献金	10,000		NEWSレター製作費		50,120	
			郵 送 費		40,500	
			郵便振替手数料		3,450	
			通 信 費		5,500	
			賃 借 ・ 管 理 費		21,600	
			高熱費・共益費		9,200	
			交 通 旅 費		7,000	
			広 告 費		0	
			祈 り 会 経 費		14,000	
合	計	219,000	合	計	163,159	
			差 引 残 高		55,841	
前月よりの繰越	130,076		翌月への繰越		185,917	

事務局よりのお知らせ

LCJE日本支部では、皆様からの声、そして証や、記事の御投稿をお待ちしています。インターネットでの御投稿、原稿用紙での御投稿いずれも大歓迎いたします。文字数は2000文字前後でお願いいたします。投稿記事は、封書で送っていただくか、LCJEJAPAN@HOTMAIL.COM 又は FAX 072-867-6721 まで。宜しくお願い致します。

編集後記

インフルエンザが猛威を振るう中、コ・ワーカーの皆様お元気にお過ごしでしょうか。今月も興味深い内容のニュースレターをお手元へ届けられる幸いを主に感謝いたします。主イエスの「福音」が今月も一人でも多くのユダヤ人へ届くようにと…お祈りください。

イスラエルでは、帰還された方々の「お墓」をどのように確保するのが大問題になっています。現在その埋葬方法を模索していますが、地下に断層構築を計画中です。テロなどの妨害から守られ深刻な「お墓」の問題が前進し、一人でも多くのユダヤ人が祖国へ安心して帰還し、主とお会いし救い主を受け入れ、救われます様にお祈りください。是非大阪祈り会、東京祈り会へもご出席くださり、イスラエルの平和を執り成しお祈りいたしましょう。コ・ワーカーお一人お一人に主の祝福がありますように。シャローム LCJE日本支部事務局長 高瀬真理

LCJE日本支部は、皆様の尊い献金で支えられています。感謝